

## 後藤ヶ丘中学校区の取組

後藤ヶ丘中学校区では、校区小中一貫教育への取り組み組織を、①心の教育・生徒指導部会、②学力向上部会、③健康教育部会、④特別支援教育部会、⑤人権教育部会の5つの部会で構成し、平成25～28年度（第1期）にかけて様々な取り組みを行ってきた。以下に各部会の取り組みについてまとめてみる。

### ①【心の教育・生徒指導部会】

#### (1) 取り組み当初の課題

本校区は中学校、小学校ともに大規模校である。児童・生徒数が多いと同時に、保護者の経済的、社会的格差が大きい。そのため、各家庭の教育に対する価値観の差が大きく、多様な児童・生徒に対する指導が難しい面がある。

児童・生徒の実態としては、自尊感情が低く、自分に自信が持てなかったり、すぐにあきらめたりする傾向がある。また、挨拶・言葉遣いなどのコミュニケーション能力の低さ、中1ギャップに代表される学校の体制等の変化に戸惑いを感じる子どもが多いといったことがあげられる。

学校間での情報交換の機会も少なく、児童・生徒の実態、指導の様子等について、担当者間で情報が止まってしまい、広く教員同士で共通理解できていない点も課題としてあげられる。

#### (2) 具体的な取り組み

##### ① 三校合同研修会の開催

校種間の児童・生徒の実態や、指導の実際を共通理解したり、よりよい指導を検討したりすることを目的に、三校の教職員が集まり研修会を行った。

##### ○平成26年度テーマ

「授業の成立が困難な学級・生徒の状況に対し、どのような工夫をして授業づくりを進めるか」

- ・小学校、中学校より授業実践紹介
- ・研究協議（予想される困難さと、具体的な支援の方法について）

##### ○平成27年度テーマ

「機関連携の重要性について」「発達障がいへの基礎的理解と具体的な支援策について」

- ・講義、および協議

##### ② 中学校教員の小学校訪問

##### ○中学校進学に向けての講話

3学期初めに中学校の教頭、生徒指導主事が、小学校6年生に対して、中学生に向けての準備や心構えについて話をし、小学校生活のまとめの目標が明確に持てるようにした。

##### ○出前授業

3学期末、中学校教員が小学校6年生の各クラスで授業を行った。中学校の雰囲気分かるように実施した。

##### ③ 小中生徒指導担当者連絡会の実施

月に1回、三校の生徒指導が集まり、情報交換を行った。各校の児童・生徒の様子を共通理解したり、指導の方向性について話し合ったりした。

#### (3) 成果と今後の課題

##### 〔成果〕

三校合同研修会や小中生徒指導担当者連絡会を実施することで、児童・生徒の実態や指導の様子を共通理解することができた。そして、自尊感情を育むために、小中一貫して、共感的な態度で生徒指導にあたることが重要であると認識し、そのような意識をもって指導に当たることができた。

### 〔今後の課題〕

今後の課題は、児童・生徒間の交流を密にしていくことである。平成 28 年度に行われた小中サミットを契機として、児童・生徒が自主的に生活を良くしていく活動に力を入れ、同じ地域に住む、児童・生徒が交流を深めていけるよう取り組みを進めていきたい。

## ②【学力向上部会】

### (1) 取り組み当初の課題

- ・家庭学習の定着
- ・学習規律の徹底（職員の異動等に起因して、職員内で共通理解が図りにくい）
- ・コミュニケーション能力の引き上げ

### (2) 具体的な取り組み

#### 学校

##### ①学習規律の一貫化と共通理解

- ・年度当初に各校の学習規律を持ち寄り、部会で検討
- ・各校において職員会等で共通理解

- 授業で大切にしているポイント「は・じ・め」の意識づけの徹底（全教室に掲示）

「は」…はっきりと話す

「じ」…時間を守る

「め」…目と耳と心で聴く

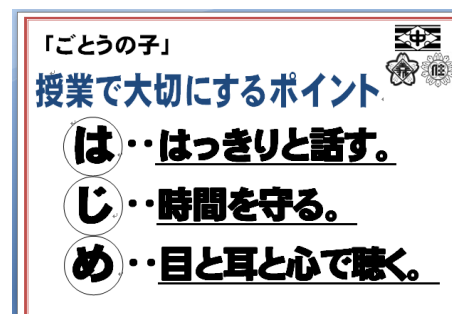
##### ②授業力の向上をめざした相互授業参観の実施

##### ③算数・数学「数量関係・関数領域の力をつけるカリキュラム」の作成

##### ④中学校の教員による出前授業の実施（3月中旬）

##### ⑤小学6年生への春休みの家庭学習（5教科）

##### ⑥7項目からなる学校生活アンケートを実施 → 経年変化の考察と指導の方向性を確認



#### 家庭との連携

##### ①教科別の学習の手引きの作成

- ・小学校入学時に小中9年間の学習の手引きを保護者に配布
- ・「後藤ヶ丘中学校の教育」に学習の手引きのページを設けて年度当初に保護者に配布

### (3) 成果と今後の課題

#### 〔成果〕

- ・算数・数学「数量関係・関数領域の力をつけるカリキュラム」を作成することができた。
- ・授業で大切にしているポイント「は・じ・め」を意識化させることができています。
- ・宿題や家庭学習の取り組みが向上してきた（ポイントが少しずつ上昇）。

#### 〔今後の課題〕

- ・相互の授業参観がなかなかできていない。
- ・学習規律の確立と学習習慣の定着がまだ十分ではない。
- ・コミュニケーション能力を高める取り組みの充実（校内研の充実）を図る必要がある。

### ③【健康教育部会】

#### (1) 取り組み当初の課題

- ・養護教諭の小中連携の機会が少ない。
- ・小学校では、「ごとうの子の生活と学習」リーフレットに沿って、年3～5回、キャンペーンを実施しているが、中学校では十分な取り組みができていない。

#### (2) 具体的な取り組み

- ・学期ごとに部会を持って、養護教諭同士の横のつながりを広げ、校区の児童・生徒の健康課題の把握に努める。
- ・中学校でも、生活実態を把握するためのアンケートを行って小学校の結果と比較検討し、共通する生活習慣上の課題を捉え、具体的な取り組みへとつなげる。

#### (3) 成果と今後の課題

##### [成果]

- ・昨年度までは、相互の情報交換を中心とした定例会を開くことで、小学校から中学校へと健康管理面のスムーズな移行に留意した。また、中1ギャップに陥るのを防ぐため、保健室からのサポートが必要と思われる児童・生徒の情報交換にも力点を置いた。

##### [今後の課題]

##### 本校区児童・生徒の健康課題

- ・小学6年生から中学1年生にかけて、裸眼視力 0.3 未満の最も視力が低い層について、特に増加していることから、小学6年生の1年間で急速に視力が低下する傾向にあるといえる(表1)。今後、小学校高学年から中学校にかけては、主に目の健康に関わりのあるメディア接触のあり方など、生活習慣の見直しが必要である。

表1 学年別裸眼視力の推移(小学校・全国はH27年度、中学校はH28年度の値)

	裸眼視力			計
	1.0 未満 0.7 以上	0.7 未満 0.3 以上	0.3 未満	
小学6年(住吉小)	6.6%	17.2%	24.6%	48.4%
小学6年(義方小)	11.4%	14.8%	26.1%	52.3%
中学1年(後藤)	7.5%	11.9%	35.3%	54.7%
中学1年(全国)	11.3%	16.8%	21.0%	49.1%

- ・歯肉炎の割合が、小学校で住吉小 32.6%、義方小 2.2%、中学校で 53.8%と学校ごとにばらつきはあるものの概ね高率であり、歯磨き習慣が十分に定着していないと思われる。

##### 今後の部会としての取り組み

- ・望ましい生活習慣の定着を図ることは、視力低下や歯肉炎を改善するためだけでなく、家庭学習の習慣化や精神的な安定の基盤にもつながる重要な要素である。生活実態と心身の健康に関するアンケートを小中で統一した内容で実施し、その結果をもとに保健指導や児童・生徒委員会での取り組みへとつなげていきたい。

### ④【特別支援教育部会】

#### (1) 取り組み当初の課題

- ・小学校での取り組みと中学校での取り組みとの関連性を図る。
- ・通常学級に在籍している支援を要する児童・生徒への対応など、各校の支援教育の取り組みについての情報交換を行い、各校の特別支援教育の充実を図る。

(2) 具体的な取り組み

	特別支援教育	特別支援学級
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第1回主任会</li> <li>・情報交換(中学校新入生の様子・中学校卒業生の進路等)</li> <li>・活動計画(小中連携の取り組み・主任会内容)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級在籍児童の体験入学</li> <li>・3校交流会</li> </ul>
夏 休み	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第2回主任会</li> <li>・情報交換(各校の特別支援教育「〇〇の教育」の概要等)</li> <li>○合同研修会</li> <li>・27年度「発達障がい基礎知識と具体的な支援策」</li> </ul>	
2 学期		<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常学級在籍児童の体験入学</li> <li>・3校交流会</li> </ul>
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○合同研修会</li> <li>・25年度「中学校特別支援学級生徒の進路について」 (住吉小保護者対象)</li> <li>・26年度「中学校の進路について～支援学級生徒の進路から」</li> <li>○第3回主任会</li> <li>・通常学級児童の個別の教育支援計画・指導計画の引き継ぎと情報交換</li> <li>○入学前児童保護者の希望面談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3校交流会</li> <li>・入学前児童対象ガイダンス (26年度～)</li> <li>・個別の指導計画の引き継ぎと情報交換</li> </ul>

(3) 成果と今後の課題

[成果]

- ・学年末に支援が必要な児童についての引き継ぎができ、入学後の指導に役立てることができた。
- ・「中学校生活ガイダンス」を作成し、それをもとに特別支援学級入級予定児童に対して説明を行うことで入学前の不安を少しでも解消し、中学校生活へのイメージを持たせることができた。
- ・中学校入学前児童の保護者で、希望があった保護者対象に面談を行い、保護者の思いを汲んだり、不安を解消したりすることができた。
- ・各校の「〇〇の教育」の特別支援教育計画について情報交換したことは、次年度に向けて自校の取り組みを見直し、改善や連携に生かせる有意義な取り組みであった。
- ・「発達障がいの基礎知識と具体的な支援について」の小中合同研修会を開き、発達障がいのある児童・生徒への理解を深めることができた。

[今後の課題]

- ・2学期に通常学級在籍児童の体験入学を行ったが、各小学校からそれぞれの時期にそれぞれの条件で体験入学の希望があり、中学校としては日程調整や対応に苦慮した。今後の持ち方を検討する必要がある。
- ・特別支援学級に入級する生徒の次年度の教科書選定をスムーズに行うため、今後2学期に教科書選定に関する情報交換を行う必要がある。
- ・小学校時から中学校卒業後の進路の方向性のある程度保護者と相談しておく必要がある。
- ・小学校から中学校へのスムーズな移行に向けて、特別支援学級でも出前授業を行ってほしい。

## ⑤【人権教育部会】

### (1) 取り組み当初の課題

- ・ 15 年プランを視野に入れた人権教育における育てたい資質、能力を明記した全体計画の作成
- ・ 小学校間、小中学校間の共通題材の確認、見直し
- ・ 児童や生徒の実態について情報交換

### (2) 具体的な取り組み（平成 27 年度）

- ・ 15 年プランを視野に入れた全体計画における資質、能力を明記することを確認（5 月）
- ・ 両方の小学校の各学年担任会を実施し、共通題材や教材の検討・見直し（8 月）
- ・ 両方の小学校の 6 年生担任会に中学校人権主任が参加し、小学校と中学校で扱う共通題材の整合性やねらいについて検討。また、外部講師における講演会の内容について情報交換（8 月）
- ・ 住吉小学校で授業公開、児童・生徒の実態について情報交換（11 月）

### (3) 成果と今後の課題

#### 〔成果〕

- ・ 15 年プランを視野に入れた育てたい資質、能力を明記した全体計画を作成し、より具体的に保、幼、小、中のつながりを意識できるようになった。
- ・ 小学校同士の共通教材の検討をしたこと、さらに中学校で何をねらうのか確認ができた。
- ・ 「がいじ」という言葉のもつ意味を小学校で学習すること。中学校で、「がいじ発言」があったときの対応について情報交換ができた。（言葉の指導）
- ・ ゲストティーチャーの講演会の内容や同和問題との出会いについて情報交換をした。

#### 〔今後の課題〕

- ・ 15 年プランを視野に入れた育てたい資質、能力を明記した全体計画を作成し、より具体的に保、幼、小、中のつながりを意識できるようになったが、系統的な繋がりをつけるためには情報交換の場が必要である。
- ・ 児童・生徒に足りない資質や能力に『態度』を挙げた先生方が多かった。  
『知識』や『技能』は身につけているが、『態度』として表せる生徒が少ないことが課題である。
- ・ 学習の中で、感性や感覚を身につけさせることが足りないので『態度』が育たない。教師が児童や生徒の自己肯定感を高めるような関わり、また、題材と関わっている方(ゲストティーチャー)から直接話を聴く機会、生徒同士の仲間作りをしくむこと等が『態度』の育成につながる。
- ・ 校区人権教育全体構想図 15 年プラン（校区人権教育推進協議会）という大きな柱があり、そこを目指し校区小中一貫教育（米子市）の取り組みがあるのが自然の流れである。2つの組織の関係性や整合性を今後検討していく必要がある。